

重大事故多発する現状を受け非常事態宣言

2009年4月15日

全国連盟遭難対策部部長 井芹昌二

2009年3月末日にて行方不明2件3名、死亡事故3件3名の事故の報告を受けた。わずか3か月間に起きた重大事故の数は異常事態である。

2009年重大事故の内容は次の通りである。

- ① 1月4日、北海道・無意根山（1460m）で道央地区連盟の女性会員（61歳）が下山時にパーティーとはぐれ、単独行動となり視界不良のため雪庇を踏みぬき5～6m滑落する。本人からの携帯電話連絡で生存が確認されたが、悪天候のために救助された時には死亡していた。
- ② 1月11日12日、長野、山梨県境・鋸岳（2685m）にて東京都連盟男性会員（43歳）が11日、単独で鋸岳へ入山する。予定日を過ぎても下山せず、13日よりヘリによる搜索、会のメンバーによる搜索が行われたが確認できず行方不明となっている。
- ③ 3月10日 群馬県谷川岳俎山麓で群馬県連盟の男性会員2名（57歳）（53歳）が下山せず搜索を行ったが見つからず行方不明となっている。
- ④ 3月18日兵庫県六甲山系・蓬莱峡で大阪府連盟の男性会員（67歳）が18日午前9時ごろ大風取り付きで発見される。事故現場状況からフィックスロープをセットし単独で登攀し、懸垂下降中に何らかの原因で滑落したと推測される。（目撃者なし）検視の結果から死亡推定時間は困難である。
- ⑤ 3月29日 長野県八ヶ岳山麓・角木場で東京都連盟の男性会員（49歳）がアイスクライミング訓練、トップロープのセット後、懸垂下降で何らかのミスが生じてグラウンドフォールしたと推測される。（目撃者なし）

登山内での死亡・行方不明者は上記であるが、最近では元会員の死亡事故、重大事故の報告もある。重大事故に繋がりがねない危険要素を含んだヒヤリハット（インシデント）はかなりの数にあると予想される。事故の状況が明確なものについては早急に分析をおこない、二度と同じ間違いを繰り返す事の無いように早急に対策を講じていただきたい。行方不明者については会を中心に搜索が続けられ、遭難の原因がいずれ明らかにされることと思う。

各都道府県連盟・各会の遭難対策担当者は非常事態を全会員に「対岸の火事」では無いこと知らせていただきたい。

「重大事故は決して起こさない・起こさせない」

- ◎単独登山は控えよう
- ◎天候判断は的確に
- ◎確かな技術・体力を
- ◎登山計画は綿密に